

今年も暑い夏がやってきました。1945年8月15日の終戦から77年が経過しました。

先の戦争の犠牲となられた国内外すべての人々の苦しみや悲しみに思いを致し、心から哀悼の誠をささげるとともに、遺族の皆様にお見舞い申し上げます。

先の大戦では、国民を存亡の危機に陥れたばかりか、植民地支配と侵略によって多くの国々、とりわけアジアの人々に対し多大な損害と苦痛を与えました。

私たちは、この大戦の反省から得た「政府の行為によって再び戦争の惨禍を繰り返さないとする」決意と、「全世界の国民が、等しく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」と謳う平和憲法の意義をしっかりと胸に刻むとともに、「恒久平和」の実現を目指していかなければなりません。

しかし、77年が経過した今も、地上では戦争行為がなくなることはなく、ロシアとウクライナの戦闘の中で、多くの尊い命が奪われるとともに街が破壊され、虐殺・拷問、暴行、略奪などの犯罪が報じられています。このことは、ひとたび戦争という極限状態では人間は想像を絶する残虐な行為にいたることを物語っており、いかなる理由があったとしても戦争行為は勿論、戦争に至るような国づくりを許してはなりません。

しかし、日本の戦後政治の「平和国家」としての歩みは、今日では、憲法理念に逆行し、戦前の「戦争国家」へと踵を返し進もうとしています。

戦後、歴代政権が憲法違反であるとして継承されてきた集団的自衛権行使は、第二次安倍政権の下で、これを柱とした安全保障関連法が強行採決され、本来憲法の平和主義に抵触するとして禁じられてきた武器輸出の解禁や PKO5 原則を逸脱した自衛隊の海外派兵も行われてきました。そして、戦後日本の平和国家としての礎とされてきた「専守防衛」についても、今日では、この専守防衛の枠すら逸脱し、空母の保有や、長距離巡航ミサイル、F35 ステレス戦闘機など専守防衛とは真逆の攻撃型兵器が大量購入さ

れています。

また、為政者たちは、防衛費の増額や敵基地攻撃能力の保有を声高に叫び、今日では、台湾を含む第一列島線内のアメリカの覇権を維持するために、馬毛島の新基地建設に加え、沖縄本島をはじめ南西諸島にミサイル配備が進められています。

今、まさに、武力の不保持と戦争放棄を誓った平和憲法が踏みにじられ、これまで日本を守るとされてきた日米安保が日本を戦場にする安保へと変質しようとしています。戦後日本は、専守防衛をはじめ、集団的自衛権行使の否定、武器輸出の禁止など、他国に脅威を与える軍事大国にはならないという「平和国家」としての歩みにより、国際社会で高い評価を受けてきました。しかし、これまでの「平和国家」の歩みに反する今日の日本の姿は、アジアの周辺諸国に対しては脅威であり、相互不信と軍拡競争が拡大することを危惧せずにはられません。

千鳥ヶ淵に眠る皆さん。戦前と同じように再び「戦争国家」へと向かおうとする今の日本の姿を見るとき、皆さんは強い憤りを感じ、そして深い悲しみに打ちひしがれているのではないのでしょうか。戦後77年が経過し、かつての残虐な戦争の歴史は修正され忘れ去られようとしています。この戦争の歴史が打ち消されたとき再び戦争への道へ向かうことは必定です。

私たちは忘れません。かつての戦争の歴史と教訓の中で平和憲法が生まれたことを。

そして、歴史の忘却に抗い憲法理念の実現に向け、立ち止まることなく平和の歩みを進めることをお誓いし、平和フォーラムを代表しての言葉といたします。

2022年 8月 15日

フォーラム平和・人権・環境 共同代表 勝島 一博